

## 4. 火災の実態

### 1 火災の概要

令和4年中の火災は、出火件数1,833件、損害額3,723,302千円、死者数64人、建物焼損床面積38,062㎡、建物焼損表面積4,727㎡、林野焼損面積579a、焼損棟数1,379棟、り災世帯数889世帯、り災人員1,917人となった。前年と比較した火災の状況は次のとおりである。

なお、令和4年中の火災の発生を一日当たりでみると、出火件数 約5.0件、損害額 約10,201千円、死者数 約0.2人、建物焼損床面積 約104.3㎡、建物焼損表面積 約13.0㎡、林野焼損面積 約1.6a、焼損棟数 約3.8棟、り災世帯数 約2.4世帯、り災人員 約5.3人である。

区 分	令和4年 ㉑	令和3年 ㉒	対前年増減数 ㉓ = ㉑ - ㉒	増減率 $\frac{㉓}{㉒} \times 100$ (%)
出火件数	1,833	1,729	104	6.0
建物火災	940	902	38	4.2
林野火災	59	80	-21	-26.3
車両火災	138	148	-10	-6.8
船舶火災	2	2	—	—
航空機火災	0	0	—	—
その他火災	694	597	97	16.2
焼損棟数	1,379	1,340	39	2.9
り災世帯数	889	849	40	4.7
り災人員（人）	1,917	1,827	90	4.9
焼損面積				
建物床面積（㎡）	38,062	35,366	2,696	7.6
建物表面積（㎡）	4,727	5,366	-639	-11.9
林野（a）	579	826	-247	-29.9
損害額（千円）	3,723,302	2,930,001	793,301	27.1
建物火災	3,489,774	2,701,470	788,304	29.2
林野火災	308	1,123	-815	-72.6
車両火災	108,666	124,254	-15,588	-12.5
船舶火災	1,635	172	1,463	850.6
航空機火災	0	0	—	—
その他火災	121,753	102,857	18,896	18.4
爆発	1,166	125	1,041	832.8
死者（人）	64	74	-10	-13.5
負傷者（人）	297	259	38	14.7

（注）ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。

イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。

ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。

- エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。  
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。  
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。  
 キ 爆発とは、人の意図に反して発生し又は拡大した爆発現象をいう。

## 2 出火件数

(1) 総出火件数は、1,833件で前年と比べて104件増加している。これを火災種別でみると、次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
令和4年	1,833件 (100.0%)	940件 (51.3%)	59件 (3.2%)	138件 (7.5%)	2件 (0.1%)	0件 (0.0%)	694件 (37.9%)
令和3年	1,729件 (100.0%)	902件 (52.2%)	80件 (4.6%)	148件 (8.6%)	2件 (0.1%)	0件 (0.0%)	597件 (34.5%)

## (2) 月別出火件数

月別出火件数は、次のとおりである。火災は、12月から3月にかけて多く発生する傾向がある。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
出火件数	261	250	228	97	118	107	128	138	125	119	96	166	1,833

## (3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は、県平均 約2.92件となっている。

## 3 損害額

火災による損害額は3,723,302千円で、前年比793,301千円（27.1%）増加した。また、1日当たりでは 約10,201千円（前年 約8,027千円）、1件当たりでは 約2,031千円（前年 約1,695千円）となっている。

## 4 出火原因

出火原因別火災発生件数は、次のとおりである。

総出火件数	放火・放火の疑い	たき火	たばこ	こんろ	火入れ	その他
1,833件 (100.0%)	217件 (11.8%)	196件 (10.7%)	167件 (9.1%)	108件 (5.9%)	99件 (5.4%)	1046件 (57.1%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

## 5 死傷者の実態

### (1) 死傷者数

火災による死者は64人、負傷者は297人で、前年に比べて死者は10人減少（前年比13.5%減）し、負傷者は38人増加（前年比14.7%増）した。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別ごとの死傷者発生状況は、次のとおりである。

火災種別	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	合計
死者数	54 (84.4%)	0 (0.0%)	4 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (9.4%)	64 (100.0%)
負傷者数	253 (85.2%)	4 (1.3%)	6 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	34 (11.4%)	297 (100.0%)

(3) 月別の死傷者数

月別死傷者数は、次のとおりである。死傷者は、12月から2月にかけて多く発生する傾向がある。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
死者数	13	7	5	6	6	2	2	3	3	2	3	12	64
負傷者数	40	40	37	13	14	14	17	29	25	14	21	33	297

(4) 年齢層別の死者数

年齢層別死者数は次のとおりであり、61歳以上が全体の約7割を占めている。

区分	0歳～ 20歳	21歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳～ 70歳	71歳 以上	不明	合計
死者数	0 0.0%	0 0.0%	2 3.1%	4 6.3%	8 12.5%	12 18.8%	34 53.1%	4 6.3%	64 100.0%

(5) 死因別死者数

死因別死者数は次のとおりであり、死者は、一酸化炭素中毒・窒息、火傷で多く死亡している。

区分	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折等	自殺	その他・不明	合計
死者数	17 26.6%	17 26.6%	0 0.0%	7 10.9%	23 35.9%	64 100.0%